第５０回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日　時：令和７年１月２９日（水）　１３：１０～１５：１０

場　所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

１．東電エンジニアリング状況について

東京電力から、１号機ＰＣＶ水位低下、３号機Ｓ/Ｃ滞留ガスパージの進捗、３号機Ｘ-６ペネ前室の調査結果について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

（１）１号機　ＰＣＶ水位低下について

○ 汚染水処理設備への影響を低減させるためにＳ/Ｃ内滞留水を希釈し放射能濃度を下げる予定とのことだが、汚染水量を増やしているような印象を持たれかねないことから、対外的に説明する場合には、ＡＬＰＳ処理水等を用いているので総量は変わらないこと等、丁寧に説明することが肝要である。

○ Ｓ/Ｃ内に滞留水が流入しているベント管とそうでないベント管が存在していること、および、ＰＣＶ内床面の堆積層が厚いところは水がかからず温度が高くて、薄いところは温度が低いことが想定される。そのようなことに留意しておくことが肝要である。

○ Ｓ/Ｃ内にＡＬＰＳ処理水等を投入して放射能濃度を下げる予定とのことだが、現状の濃度のまま取り出してから別のタンクなどで希釈する方が効率的である。

（２）３号機　Ｓ/Ｃ滞留ガスパージの進捗について

○ Ｓ/Ｃ内頂部に残ってしまう水素のパージ方法については、窒素封入による希釈とパージを繰り返すことを検討中とのことだが、気体の挙動を推定しながら検討を進めることが肝要である。

（３）３号機　Ｘ-６ペネ前室の調査結果について

○ 本調査で得られた情報は号機ごとの事象進展の違いを評価する上でも重要であることから、情報を共有し評価に反映することが重要である。

２．次期研究開発計画について

機構から、次年度一件一葉（案）、東京電力から、次年度廃炉研究開発への期待事項について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

（１）次年度一件一葉（案）について

○ ＲＰＶ底部には穴が開いているだろうと想定されており、そこからアクセスするＲＰＶ内部調査

については、ドローンによる事前調査を実施し、現場の状況をしっかりと把握した上で準備を進めることが望ましい。

○ 次年度からは、東京電力の期待事項と研究開発の実施内容がきちんと結びついていることを、しかるべき時期に説明して欲しい。

○ １F 廃炉全体工程の中で、この２年間は何を実施するのかについての説明も重要であることから、今後、説明の仕方を工夫することが望ましい。

○ 研究開発を進める上では、安易に試験体のスケールを決めてしまうことが無いよう、シミュレーション結果等を踏まえた根拠のあるスケールで試験を行うことが肝要である。

（２）次年度廃炉研究開発への期待事項について

○ 今後は、研究開発の成果についてもこの専門委員会で報告いただき、委員からの意見を次年度研究開発計画へ反映することが望ましい。

以上